

外注業者への目録業務委託に関する指針についての検討

東京大学 福室

千葉大学 高野

筑波大学 森岡

はじめに

職員数の減少や業務量の超過は、国公立を問わず多くの大学図書館で問題となっており、大学の経営が厳しくなっていく状況下において、業務の効率化を求める動きが高まっている。また科学研究費による遡及入力などスポット的な業務に対応しなければならない場合がある。それらの対応策として、目録業務のアウトソーシングが注目されているが、実際の運用の中で問題点も生じている。今回は、特に私たちの身近で実際に起こった問題点を取りあげて、その解決策について検討を行なった。

1. 業者に対する教育と、技能を証明する手段の必要性

業務を委託した外注業者が目録規則に関する知識を十分に持っておらず、間違った書誌データを登録するケースが起こっている。また、和漢古書など特に知識を必要とする資料の目録作成についても、業務をこなすことが出来る水準の知識がないのに入札に応じ落札する業者がいるため、トラブルが発生している。しかし入札の際に口頭で確認するだけでは、業者の知識・技能を計る事はできない。そこで、目録作成技能認定試験を行ない、入札の際参考にすればこうした問題の解決が期待できる。以下のように、基本的なNACISIS-CATの知識を習得させるための講習会と、特殊な資料の目録についての技能認定試験を行なうことを提案する。

- ・NIIで業者を対象とした目録システム講習会を開催し、講習会修了者による登録を原則とする。業者を対象とした目録システム講習会は、NACISIS-CATの概念、目録操作の実際を学ぶという点では、本来、図書館職員対象の目録システム講習会と変わるところはないはずであるが、たとえば現物によらない入力を認めるなど業者に対する特別な指針を設ける場合には、それらがカリキュラムに組み入れられるべきであろう。
- ・特に知識を要する資料の目録作成について、NIIが技能認定試験を行なう。具体的には、和漢古書、中国語資料、韓国・朝鮮語資料が挙げられる。

2. 業者による現物によらない書誌データ登録についての対応

図書の納品をNC書誌・所蔵登録処理とパッケージにしたサービスを提供している業者が、現物によらずに書誌・所蔵登録を行なっている事実が存在する。現行のNACISIS-CATではこれは認められていないが、目録処理を業者委託により効率よく迅速に行ないたいという強い要望がある現状を踏まえ、入力指針を示すことによって、これを認め、かつデータベースの品質を保つことが出来るか検討した。